

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870400231		
法人名	医療法人 浩悦会		
事業所名	グループホーム 南風		
所在地	茨城県古河市坂間185-14		
自己評価作成日	2020年5月24日	評価結果市町村受理日	2020年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でスタッフが家族のようにあたたかく接し、毎日笑顔の絶えない開放的なホームです。日常のコミュニケーションや傾聴を心掛け、思いや希望を尊重し寄り添い思いやりのある支援をしています。ご利用者様とそれぞれの出来る事を生かしながら、料理を作ったり、洗濯物をしたりお互い支え合いながら生活をしています。また一人ひとりの体調の変化や心理面の変化を細やかに観察し、併設されているクリニックで急な体調不良にも対応ができる為医療面でも安心して生活ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染予防の為、家族の面会やボランティア訪問が難しい中、職員は利用者とのコミュニケーションをこれまで以上にとるよう心がけている。思いや意向を吸い上げることにより、その人のやりがいと意欲を発揮できる場を見出し、認知症の進行や残存機能低下防止に取り組んでいる。利用者の様子は家族にお便りで伝えている。母体法人が医療機関であり、夜間帯も24時間連携が可能で、家族・利用者だけではなく、職員にとっても安心出来る体制となっている。食事が自慢の一つであり、季節の食材を用いた、手作りの食事が提供されている。感染拡大中の大変な時に、利用者家族が東京からマスクや消毒液を玄関先に届けてくれたり、手作りマスクを提供してくれるなど、良好な関係が築かれている事業所である。  
\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り後に理念の唱和を行い、休憩室や玄関等に掲示する事でスタッフ全員が意識付けをし業務につなげている。	利用者の尊重と地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して、玄関・事務所・各ユニットの視線の入りやすいところに掲示し、毎日の申し送り後に唱和して意識付けをしている。職員は個々に合わせたケアの提供と利用者の小さな変化を見逃さないよう注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃に参加している。毎年敬老の日には紅白まんじゅうを頂いている。週に1回ヤクルトの販売員の訪問あり、購入している。	自治会に加入し、環境美化活動に参加して近所の方と挨拶を交わしている。ボランティア訪問(マジック・二胡・朗読・ギター・歌等)があり、利用者は楽しみにしている。二胡ボランティアの楽しいトークや笑いのペースに自然と巻き込まれ、場が盛り上がるということ。自治会から広報誌が届き、敬老会のお赤飯と紅白饅頭を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ハローワークや県社協の受け入れの登録をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響により、市介護保険課の指導にて書面にて状況報告など行う。頂いた意見を今後のサービスに活かしていく。	介護保険課の指導により、4月は書面にて状況報告等を行った。6月は歯科医・居宅介護支援員・元利用者家族・家族・利用者・行政・事業所担当者のメンバーで開催し、近況報告・勉強会(新型コロナウイルス)・看取りケア・今後の取組みを報告した。看取りケアに対し、家族から感謝の言葉や、記録についてのアドバイスがあった。欠席した家族には郵送、職員には会議で報告・回覧し、共有している。郵送した書面に対する意見や要望は無い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の方に運営推進会議に参加して頂いている他に電話で取り組みや情報を伝えアドバイスをいただいている。こども110番の登録をしている。	担当課(介護保険・地域包括センター・社協)とは連絡を密にとり、良好な関係を築いている。グループホーム連絡協議会は最近では開催されていない。子供110番を設置している。最近、中学生の体験学習受け入れ要請は無い。小学校運動会・文化祭に招待を受けているが、諸事情で行かれないので、今後は小学生の町探検の場としての提供等を検討し、交流を図りたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置。3ヶ月に1回会議を行っている。勉強会も行い身体拘束に対する知識を深め、ケアに活かすようにしている。玄関は防犯の為施錠している。	委員会(身体拘束廃止・虐待廃止と連携)を設置し、3か月毎に会議を開催している。身体拘束となる行為・弊害は周知している。一時的に拘束となる場合の書類は整備している。玄関は防犯上施錠しており、今後、家族に説明し了承を得る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待について学び、日々のスタッフの対応について等話しあうようにしており、身体拘束と共に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加。現在制度を必要としている入居者はいないが、いつでも対応ができるよう研修の参加など学ぶ機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項の説明と共に契約書を読み上げ更に納得の有無を確認し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、直接面会時や電話連絡した際に聴く事が多い。頂いた意見は必要に応じてスタッフ間で共有しホームの運営に反映できるようにしている。	毎月発行の広報誌・利用者の一筆・写真を送付し、日頃の様子を伝えている。意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明記しているが、面会時や電話連絡の時に意見や要望を聞くことがほとんどである。新型コロナウイルス感染予防の為、これまでのような面会が難しく、窓ガラス越しに面会をしていたが、6月20日から東京・千葉在住の家族を除いて面会解除となった。家族会では一年間の様子をスライドで振り返っている。	重要事項説明書の中に苦情解決責任者名・国保連の電話番号を明記することが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の時やスタッフ会議の際に意見や提案があれば聞く機会を設けている。経験の浅いスタッフの意見も貴重な意見としてケアに活かすようにしている。	運営に関して、新採用職員や新しい利用者等の報告がある。現場の気づきや提案はその都度検討し対応している。カンファレンスでは利用者に対するケアの内容が話題となる。新人職員の意見は貴重であり、全職員が耳を傾けているとの事。自己評価やアンケートを実施し、働きやすい環境整備に努めている。職員同士思いやりがあり、チームワークは良好で、ストレスや不満は無いとの事。職員は仕事が楽しいと話していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価のアンケートの実施し、それをもとに職場環境、条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格のスタッフに対し、初任者研修の受講してもらっている。外部の研修も受講したいが、スタッフの人数の関係で難しさがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の開催があれば参加するようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の段階から直接ご本人とお会いする事で要望や不安な事など傾聴し、入居後も一緒に生活する中でコミュニケーションを図りながら安心して生活ができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時よりご家族の不安や要望など詳細にうかがい、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、訪問歯科の受診や隣接するクリニックでのリハビリを提案させていただいてる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どの入居者様も家族の一員として活躍の場がもてるように支援し、お互い支え合いながら生活ができる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有しながら、ご本人が安心して生活ができるよう、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	毎月のお墓参り、ご自宅の近所の方の面会、遠方のご家族やご友人との電話や手紙のやりとりなど関係が継続できるよう支援している。	希望に応じて電話や手紙で遠方の親族や学生時代の友人、近所の方達とやり取りをし、馴染みの関係継続に努めている。携帯電話を持参している方もいる。月命日のお墓参り・外出・プール・美容院・温泉・外食と、家族と外出する利用者がいる。乳酸飲料や新聞を購入している利用者がいる。1階と2階の利用者同士が馴染みの関係となるよう支援している。近所・同僚・サークル仲間の訪問があり、利用者と一緒に時間をすごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格などを考慮し食堂席を変更したり、好きな場所で過ごせるようか環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談や経過など支援をしている。退去後にホームでの写真やDVDを作成しお渡ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から希望を伺うとともに日常の中の会話や表情などから意向の把握をし、利用者本位のケアができるよう努めている。	日々の会話の中から利用者の思いや希望を聞き、職員間で共有して統一したケアの提供に努めている。読書・塗り絵・プール等の趣味の継続や、洗濯干し・たたみ・料理の下準備・盛り付け・下膳・掃除などの生活リハ、週5程度のリハビリ等、利用者のやりがいに繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係各所などから情報を得て把握に努めている。面会時などに得た情報も職員間で共有しケアに活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の個別記録を詳細に行い、スタッフ間で情報共有し現状の把握に努めている。毎朝体温を測定し健康状態の観察も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と相談をし、担当者会議により実現可能な目標をたてている。個別記録に評価が日々記録できるようになっている。モニタリングや記録を基に継続か変更か担当者会議で検討している。	利用者・家族から意見や要望を聞き、担当者会議で利用者のニーズとケアのあり方について話し合い、実現可能な目標を立てたプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。ケース記録にはプランに添ったケアの提供内容・行動・言動・表情・考察・かかわり等を記録し、利用者の様子がわかりやすい記録となっている。モニタリング(基本6ヶ月ごと)や記録から次回の評価に繋げ、現況に即したプラン作りがされていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言動や表情など詳細に個別記録に記入、目標の評価も行い、スタッフ間で情報共有をしケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の訪問診療、通院の付き添いや送迎、美容院の出張サービスなど必要に応じて対応させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で開催される桃まつりや菊祭りに参加し、地元の風景や気候を楽しんでいる。その他に地域資源の活用も今後考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族と相談の上併設クリニックがかかりつけ医となるが、他院がかかりつけ医の場合でも急な体調不良の際も併設クリニックで対応可能。健康診断、MMSEテストも行っている。	併設クリニック医の往診が週1回、3ヶ月毎の健康診断、6ヶ月毎のMMSEテスト、月曜日のバイタル測定で体調管理に努めている。変化や異変があればすぐに対応してもらえる。家族に連絡した内容はケース記録に残している。専門医受診は家族が付き添い、報告を受け記録に残している事が確認された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設クリニック看護師に状態報告、相談をし、必要に応じて診察などの指示をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は介護サマリーにて情報提供し、管理者、スタッフが面会に行き、ご家族、病院関係者と連絡を取り合い情報交換をして状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護について説明を行い、看取りの同意書、アンケートを行っている。看取りに入る段階にも再度要望を伺い看取りケアを行っている。看取りに関する勉強会も行い希望に添ったケアができるよう努めている。	契約時に看取りについて説明して同意書をもらい、アンケートをとっている。看取り段階前に、ドクターから現状やこれから予測される状態を説明してもらい、家族としての思いを再度確認し、同意書を新たに取引先と、ドクター・看護師・家族・全職員と連携を図って利用者にとっての最善のターミナル支援に取り組んでいる。急変時の対応について、事前に相談して指示を仰ぎ、1時間置きに記録に残すことで、次の介護にスムーズに繋げることが出来た。今後は表情も記入するとの事。夜間は2人体制であり、管理者に連絡を取れば、ドクターとの連携が取れるので不安は無いとの事。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設クリニック医師に連絡をし指示のもと対応している。スタッフ全員が救命講習を受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は実施しているが、洪水など水害を想定した訓練は実施できていない。洪水時等の避難確保計画書、5日分の献立表、緊急時の入居者リストを作成している。非常時に地域の方に協力して頂けるよう要請している。	地震・火事・風水害マニュアルを作成し、消防署指導・自主訓練を年2回実施し、利用者が安全に避難できる方法を職員は身に付けている。自主訓練では、初期消火・夜間想定で、緊急通報システムで消防署通報と同時に職員に通報、避難経路確認し、非常階段を使用した訓練・利用者行動把握等も行った。昨年は洪水時の避難命令を受け、病院の入院患者も受け入れ、全員で垂直避難した。非常時の5日分の献立表を作成している。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に個人情報使用承諾書、南風だより配布に関する同意書をいただいている。個々の性格など考慮し、プライバシーを尊重した対応が出来るよう努めている。	契約時に情報開示に関する説明を行い、同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。呼びかけは下の名前で呼んでいるが、なれ合いにならないように、敬意をもって接している様子を垣間見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のペースに合わせた環境をつくったり、時間をかけて自己決定や思いが伝えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望に添った支援をしたいと思うが、難しい場面もある。ホーム内で好きな場所、好きな時間が過ごせるような環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回美容院の訪問があり、ご本人、ご家族と相談しカットやカラーなど希望に応じて行っている。季節に合った洋服が着られるように衣替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食事の準備から片付けまで一人一人ができる事を出来る範囲で行ってもらっている。旬な物や季節のメニューなど四季が感じられるメニューを心掛けている。アレルギーや食べられない物があっても別メニューで対応し食事を楽しめるようにしている。	メニューは利用者に希望を聞き、旬のものを取り入れ、それに応じた食材を届けてもらい、職員と一緒に利用者が出来る範囲で下準備や盛り付け、配・下膳、台拭き等を一緒に行っている。利用者の状態に応じた形態で提供し、アレルギーや好き嫌いに対しては別メニューで提供。ホワイトボードでメニューを提示し、食欲を注ぐ工夫をしている。出前を取ったり、外食(3ヶ月毎)に行く以外に、年1回の菊祭りには家族会を兼ねて全員で出かけ、利用者と家族の思い出つくりの場となっている。手作りドーナツ・白玉・お稲荷さん作り、ケーキのデコレーションを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し日々観察している。お粥や刻み食など一人一人の状態に合わせた食事形態で提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、準備を行い必要に応じて介助をし、毎晩義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、スタッフ全員が排泄パターンや回数を把握できるようにしている。言動や表情などを見逃さないよう観察し声掛けのタイミングを計り失敗を減らせるよう努めている。	自立の利用者には見守りと排泄後のチェックを行っている。チェックリストを元に利用者一人一人の排泄パターン、表情や様子からタイミングを見逃さないように声掛けをしてトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をおこなっている。リハビリパンツから布パンツに改善した利用者がある。腹部マッサージ・運動・乳酸飲料・水分等で便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージ、運動や乳酸飲料を含めた水分摂取を心掛けている。場合により下剤を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添った時間や曜日の入浴は難しいが、週3回入浴できるよう支援している。入浴剤を使用したり好みの温度にするなど入浴を楽しめるようにしている。	週3回、午前中の中の入浴となっているが、要望があれば夜も対応できる。拒否者には声掛けや誘導を工夫し対応している。入浴剤・季節のゆず湯・しょうぶ湯を提供し、回想や気分転換を図っている。会話が弾み、普段聞けない話が出る時もあり、その時間けた話は全職員で共有し、話題が広がるきっかけとなっている。当日、入浴担当の職員が利用者の『笑顔』と『ありがとう』という言葉が励みになるとほほ笑んでいた。皮膚感染予防対策として足ふきマットの上に個人用タオルを敷いている。まき爪の処理は看護師にお願いしている。着替えの準備はできる方は自分で、または職員と一緒にする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に居室で横になったり、リビングでテレビを見たり、好きな場所で好きな時間を過ごせるように配慮している。夜に休める様に午睡の時間を調節したり適度な運動をするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧表をファイルにまとめスタッフがいつでも確認できるようになっている。血圧手帳にバイタルを記録したり、その他にも症状の変化があれば主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケをしたり、歌番組を観たり、裁縫をしたりそれぞれが好きな事を楽しめるように支援している。ご家族に好きなお菓子や飲み物を持参してもらうなど食べる楽しみも持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり、ご家族と外出をしたり希望に添えるよう支援している。秋にはホームで菊祭りに出掛けたが、春のお花見はコロナウイルスの影響で中止となった。	新型コロナウイルス感染予防の為、現在、外出支援は難しいが、これまでは天候・体調が良ければ周辺を散歩したり、コンビニやスーパー等に出かけていた。四季に合わせた花見(桃・桜・紫陽花・彼岸花・菊等)に出かけ、季節の移ろいを感じてもらう。外出前、外出後は家族に報告をしている。家族と一緒に外出・外食・プール・お墓参りに出かける利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はスタッフで行っている。居室内で現金を所持している方もおり、トラブルの原因になる為ご家族とも相談し少しだけにするか、できるだけ所持しないようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人、遠方に住んでいる親族、友人などご希望に応じて電話や手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛飾りやクリスマスツリーなど一緒に飾りつけをし季節を感じられるようにしている。テレビが見やすいようにカーテンをしたり、換気の為窓を開けたりエアコンで温度調節を行い快適に過ごせるように配慮している。	季節を感じる飾り(雛飾り・クリスマスツリー)や展示物(節分の鬼の面・ブドウ等)を置いたり、見やすいカレンダー・時計を掛け、見当識に配慮した工夫があった。それぞれが好きな場所でのんびり過ごしている。新型コロナウイルス感染対策としてこまめな換気を心掛けている。利用者の自信作である習字やイベントの写真、手作り品を壁に飾っている。和室は昭和を感じさせるサイドボード・鏡台・レトロな人形を配置し、懐かしい雰囲気を作っている。トイレ・風呂場の表示は分かりやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がリラックスした状態で過ごせるようにソファを配置して、気兼ねなく談笑ができるような空間づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾りや写真、仏壇の持ち込みをしていただいている。ご本人の状態に応じて配置を変更する事もあるが、出来る限り自宅に近い雰囲気をつくれるように努めている。	居室入り口に表札・花の名前・自分が作った飾り物を付けて混乱防止に努めている。大きなクローゼットの中に荷物は収納している。テーブル・椅子・サイドボード・姿見・テレビ・仏壇・冷蔵庫等を動線と安全面に配慮し設置している。家族の写真・位牌・造花・ぬいぐるみ・叙勲の賞状・パズル等を飾ったり、愛読書が並べられ、その人らしい落ち着いた居室となっている。掃除は職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口の表札の他に目立つ飾りをつけたり、ご本人が制作したものを飾ったり、分かりやすいようにしている。トイレも見やすいように壁に表記している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム南風

## 目標達成計画

作成日: 2020年7月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	重要事項説明書の中に苦情解決責任者名・国保連の電話番号を明記する事が望ましい。	重要事項説明書に左記の項目を追加する。	重要事項説明書に苦情受付、苦情解決責任者、ホーム外の受付窓口として古河市介護保険課、茨城国保連介護保険苦情相談室の電話番号を追加した。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。